大豆情報 （第2号）

令和７年６月３日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

～ 収量・品質向上で所得を確保しましょう ～

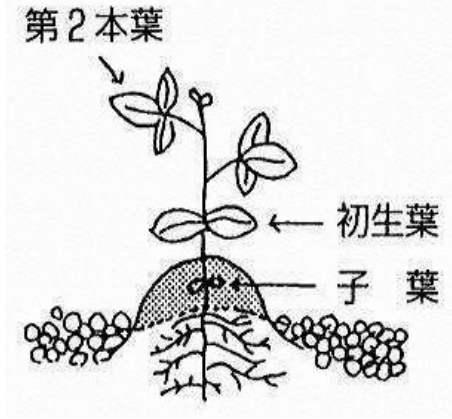
○「適期に確実な培土」で雑草の抑制と根量を確保！！
○ 培土後は「排水溝の再点検」を行い、梅雨時期の大雨に備えましょう。

１．培土の実施

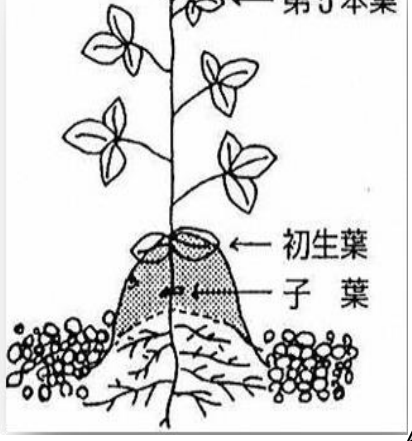
培土は大豆の収量・品質を大きく左右するので、晴れ間をみて確実に実施しましょう。

～１回目は遅れずに、２回目は確実に行いましょう～

〈１回目〉
本葉２～３葉期
（播種 20～25 日後頃）
子葉が埋まる程度
まで培土する。

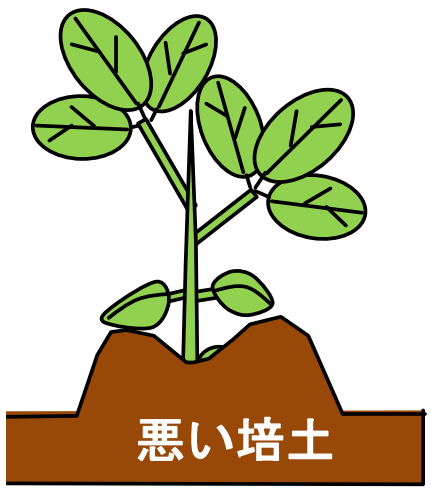


〈２回目〉
本葉４～５葉期
（播種 30～35 日後頃）
初生葉が埋まる程度
まで培土する。



【培土作業のポイント】

○ 作業の前に培土板の調節や耕うん爪の点検（すり減った爪は交換）を行いましょう。
○ 乾いたほ場から作業を行い、株元までしっかり土を寄せましょう。
○ 晴れ間をみて速やかに２回目（本葉４～５葉期、播種30～35日後）の培土を実施し、生育量を確保し雑草の発生を抑えましょう。
○ 降雨などで培土が遅れ、雑草の繁茂が見られたら、除草剤を適宜散布しましょう(裏面参照)。
○ 麦跡等の１回目培土(２～３葉期、播種20～25日後)も遅れずに行いましょう。



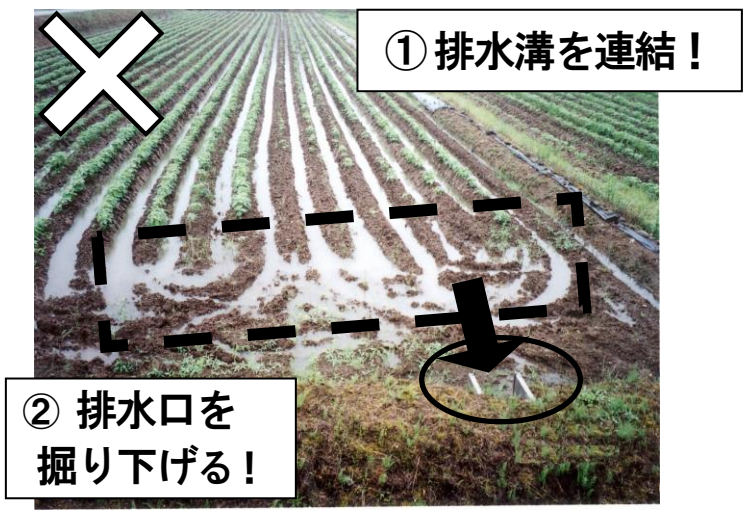
水がたまり、湿害や病害が発生しやすくなる。
新根が伸びず、株間の雑草が残る。

２．排水対策の実施

排水対策は大豆の生育に大きく影響するため、必ず行いましょう。

【排水対策のポイント】

○ 培土でできた溝は、その日のうちに額縁排水溝や排水口にしっかり連結しましょう。
○ 溝は随時点検・補修し、ほ場の停滞水を速やかに排水できるようにしましょう。



3．除草　　～ 雑草の種類に応じて除草剤を散布しましょう ～

薬剤名	対象雑草	10a 当たり散布量	使用方法	使用時期	使用回数
パワーガイザー液剤	1 年生雑草	薬量 200～300mℓ（水 100ℓ で希釈）	雑草茎葉散布	出芽直前～3 葉期まで（雑草発生始期～2 葉期）	1 回
			雑草茎葉散布 ※畦間処理	生育期（雑草発生揃期～2 葉期）ただし収穫 30 日前まで	
ポルトフロアブル	1 年生イネ科雑草（ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く）	薬量 200～300mℓ（水 100ℓ で希釈）	雑草茎葉散布	イネ科雑草 3～10 葉期 ただし収穫 30 日前まで	1 回
大豆バサグラン液剤	1 年生広葉雑草（イネ科を除く）	薬量 100～150mℓ（水 100ℓ で希釈）	雑草茎葉散布	大豆 2 葉期～開花前まで（雑草 6 葉期まで）ただし収穫 45 日前まで	1 回
		薬量 300～500mℓ（水 100ℓ で希釈）	雑草茎葉散布 ※畦間処理	大豆の生育期（雑草 6 葉期まで）ただし収穫 45 日前まで	
ロロックス	1 年生雑草	薬量 100～200g（水 100ℓ で希釈）	雑草茎葉散布 ※畦間・株間処理	本葉 3 葉期以降 雑草生育期(草丈 15cm 以下)ただし収穫 30 日前まで	1 回
ザクサ液剤	1 年生雑草	薬量 300～500mℓ（水 100～150ℓ で希釈）	雑草茎葉散布 ※畦間処理	雑草生育期 ただし収穫 28 日前まで	3 回

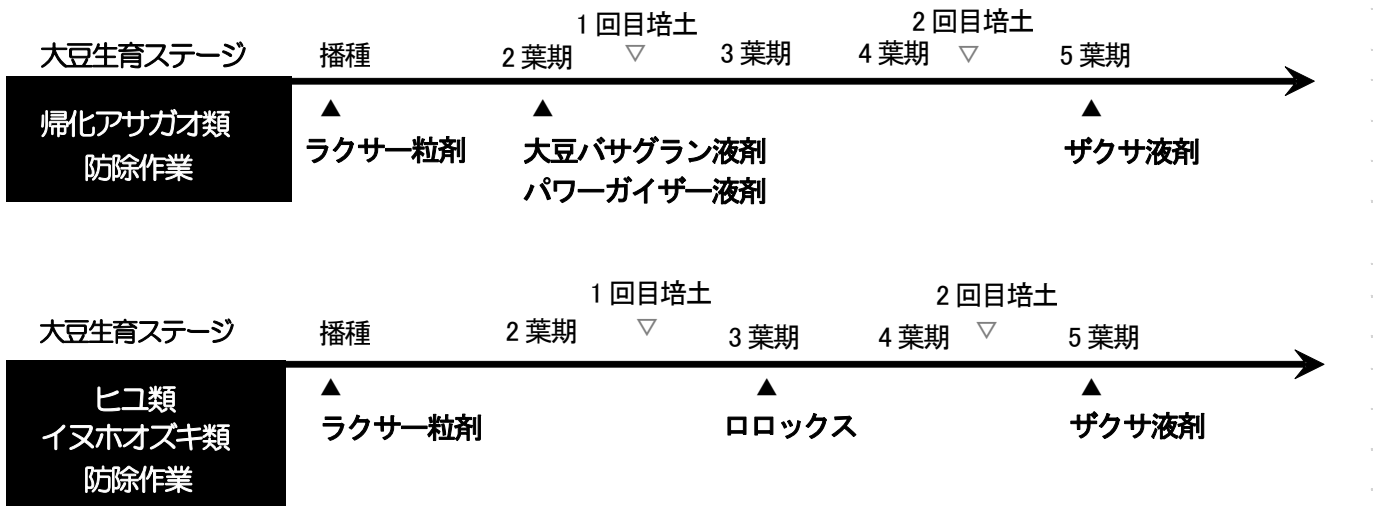
※除草剤は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。
※畦間・株間処理をする場合は、薬害を軽減し、効果を高めるため吊り下げノズルを使用しましょう。

【難防除雑草の発生に注意】
大豆ほ場への侵入・蔓延を防ぐため、早期発見に努め、ほ場侵入初期の防除を徹底しましょう。

イヌホオズキ↓

マルバルコウ↑

【 難防除雑草（帰化雑草等）に対する薬剤防除と管理の目安 】



※ 留意事項 ※
○ 帰化アサガオ類の発生がみられたら早めに抜き取りましょう。
○ 畦畔からの侵入を防ぐため、畦畔雑草は早めに処理しましょう。
○ 除草剤散布後も発生状況に応じて、手取り除草等を行いましょう。抜き取った株は、そのまま放置せず、ほ場外で適切に処分しましょう。

詳しくは各地区営農経済センターにご相談ください。

☆「守ろう 農薬ラベル 確かめよう 周囲の状況」農薬危害防止運動実施中(4/1～9/30)
☆ 栽培履歴の記帳・とやま GAP の実践を！　　大豆情報第 3 号の発行は 7 月中旬予定